



2011年もあと少しとなりました。東北では震災がありまだまだ多くの方が避難生活をされています。広島でも最近県北で地震があり、災害に対する認識を持ち続けることが大切だと実感しました。最近、気温が下がってきています。冬将軍が到来と同時に「インフルエンザの季節」到来ですので『手洗い・うがい対策』をして予防しましょう。

今号と次号は、失語症をもった方とのコミュニケーション方法について簡単にご説明したいと思います。

失語症は見た目にはわからない



失語症をもった方は全国で約50万人おられます。失語症をもった方（以下失語症者）は見た目ではわからないために障害のサポートの方法も理解されにくい状況に置かれています。失語症＝コミュニケーションの障害は話してみないとわからないのです。失語症者から自分の障害の状態や困っていることを周囲に伝えることが難しいので社会の中で認知されにくいという点があります。

失語症者が直面するトラブルとしては、外出先でタクシーを呼びたくても電話がかけれない、一人ではことばが理解できず、怖くて一歩も外出できない、書類が読めない、銀行などの窓口の人が早口で理解できないなどがあります。周囲の人とのやりとりがうまくいかないことから外出するのが嫌になったり、近所の人に話しかけられたら答えられないので人に会いたくないといった状況に置かれてしまうこともみられます。失語症者と話す際のポイントを理解することで「会話することを楽しむ」生活が広がっていきます。

失語症の症状と接し方



聞いて理解することが難しい場合

よく見られる症状

- ・ことばの意味を理解できない
- ・ことばを頭にとどめていけない

悪い接し方の例:早口、ひとつの文が長い、分かりにくい言葉や回りくどい言い方をする。

話かけのポイント

- ・ゆっくり、はっきり
- ・短い文で
- ・分かりやすい言葉で
- ・話題が変わる時は「話題が変わること」をはっきり言う。
- ・伝えたい内容を大きめの文字で書き出す。文章は×
- ・表情や身振り、指差しなどを使う



分かりやすい
ことばに変え
てみてはどう
でしょうか？



例えば・・・生年月日は？と尋ねたのに伝わらない時どういう方法がいいでしょうか？

Aさん:「生年月日は？」 失語症者:「……」

このような場面では同じ質問を繰り返しても失語症者は「生年月日」ということばが理解できないのかもしれません。

ではどうしたらいいでしょうか？

「生まれたのはいつですか？」や「お年はいくつですか？」など質問を変えてみることで理解しやすくなる場合があります。

話すことが難しい場合

よく見られる症状

- ・言おうとしてもことばが浮かんでこない
- ・違うことばがでてしまう
- ・同じことばがでてしまう など

悪い接し方の例: 次々に質問する、誤りをいちいち指摘して訂正する

話を聞く時のポイント

- ・「はい」「いいえ」で答えられる質問をしてみる
- ・会話の内容から伝えたいことを推測し聞き返してみる
- ・写真や絵、文字(漢字)などを出してその中から選んでもらうようにする



例えば・・・住所を尋ねたのにことばがでない時どういう方法がいいでしょうか？

Aさん:「住所は？」

失語症者:「えーと、えーと、あそこ、どういんかいね」

Aさん:「どこですか？」

失語症者:「えーと」

このような場面でこれ以上同じ質問をしても失語症者は住所をことばで伝達することは難しいことが多いのです。

ではどうしたらいいでしょうか？

Aさん:「東区に住んでいますか？」(質問しながら東区と書く)

失語症者:「はい」

Aさん:「牛田ですか？」(質問しながら牛田と書く)

失語症者:「いいえ」

Aさん:「戸坂ですか？」(質問しながら戸坂と書く)

失語症者:「はい」

はい・いいえ質問
形式に変えてみて
はどうでしょう



このように質問の方法や文字を提示するなどの工夫でコミュニケーションがより円滑に行なえる場合もあります。一つの方法だけではなく様々な手段を用いて「会話を楽しむ」ようにできると伝えていくという意欲の向上に繋がっていくと思います。